広報はりま　発行／播磨町役場　〒675－0182（個別番号）　兵庫県加古郡播磨町東本荘1丁目5番30号　TEL 079（435）0355　FAX 079（435）0609　編集／企画グループ　印刷／明光印刷
播磨町のホームページアドレス http://www.town.harima.lg.jp
〃 Eメールアドレス kikaku@town.harima.lg.jp

播磨ヒストリア

播磨町の歴史をひも解き、その時代にタイムスリップして、当時の出来事をエピソードを交えながら紹介します。

播磨町郷土資料館 館長補佐　宮柳 靖
☎079（435）5000

▲礼盤（町指定文化財）

エピソード九　礼盤（らいばん）に記（しる）された督姫（とくひめ）

今から400年あまり前、安土桃山時代から江戸時代にかけて生きた一人の女性がいました。名前を「督姫」といい、徳川家康の次女です。

天正10（1582）年、本能寺の変で織田信長が亡くなったあと、甲信地方（山梨県と長野県）で徳川氏と北条氏の領土争いが始まります。兵力では北条氏が勝っていましたが、信濃地方（長野県）の豪族を味方につけた徳川氏が有利に戦っていました。一進一退の戦いで両者は間もなく和睦し、19歳の督姫が北条氏直（うじなお）のもとへ嫁ぎました。

ところが、天正18（1590）年、豊臣秀吉の小田原攻めで北条氏は負け、督姫は家康のもとへもどります。独り身となった督姫でしたが、29歳のとき秀吉の仲人で池田輝政（てるまさ）と再婚します。結婚して5年間は、子どもに恵まれなかった督姫でしたが、第1子忠継（ただつぐ）の誕生を機に5人の子どもを産んでいます。輝政には16歳の利隆（としたか）をはじめ4人の子どもがありましたが、督姫は忠継を次男にし、生まれる子どもを溺愛しました。

忠継誕生の翌1600年には関ヶ原の合戦があり、戦功のあった輝政は姫路52万石を家康公から与えられ、督姫は「播磨御前（はりまごぜん）」と呼ばれるようになりました。

慶長8（1603）年、岡山城主 小早川秀秋（こばやかわひであき）が亡くなると、督姫は幕府を強引に動かし、わずか5歳の忠継を岡山城主につけました。さらに、慶長15（1610）年には、第2子でまだ9歳の忠雄（ただお）を淡路国6万石の由良（ゆら）城主にすえて、強大な権力を得ていきます。

そのころの様子を書き記したものが、北本荘の蓮花寺（れんげじ）で見つかっています。それは、僧侶が本尊の前で座る高座で礼盤（「らいばん」ともいう）と呼ばれ、その裏側に書かれていました。

慶長14（1609）年、宥恵（ゆうけい）というお坊さんが、「御前様（督姫）は、かご50～60、お付の女性は300人を超え、家臣などを合わせると、総勢5000人余りの大行列で江戸に向かっていました。お供のぜいたくで、はでな衣装を見た人々は一様に目を見張り『前代未聞だ！』と驚きの声をあげ、あっという間に国中に広まった」と書きとめています。

このころには姫路城が完成し、督姫は繁栄を極めていたといえるでしょう。

町の人口 11月1日現在（住民基本台帳人口＋外国籍人口）
34,527人（＋40人）　男…16,939人（＋22人）　女…17,588人（＋18人）　世帯数…13,890（＋21）

PRINTED WITH SOY INK
Trademark of American Soybean Association